

VIII 成果と課題

1 シラリカ 2 遺跡出土の円筒土器下層式について

八雲町シラリカ 2 遺跡では縄文時代前期の円筒土器下層 d 式に近接しているがそれよりも古手と考えられ、下層 a・b 式までには遡らない土器が主体的に出土した。この内、復元土器の拓影図を図Ⅷ-1～3 に示しておいた。これらは、山内・三宅などによって設定された c 式とは特に口縁部文様帯の様相が異なり、森町森川 A 遺跡出土資料（熊野・八木 1974）に類似している。

このような土器群は近年、大沼により円筒土器下層 c 式に相当するものと考えられ、森川式が設定されている（大沼 1986）。

ここでは大沼の見解を踏まえ、本遺跡出土土器について若干まとめてみたい。

(1) 円筒土器下層式の研究史—円筒土器下層 c 式を中心として—

円筒土器は長谷部言人が上層・下層で土器が層位的に出土することを確認（長谷部 1927）し、更に下層式について山内清男が b・c 式を層位的に、a・d 式を型式学的に細分した（山内 1927）。その後、江坂輝彌（江坂 1970）・村越潔（村越 1974）・三宅徹也（三宅 1974、1981、1989）などが下層式を詳細に検討し細分した。現在では a・b 1・b 2・c・d 1・d 2 式の大きく 6 型式に分類するのが通例であろう。

北海道においても、同様の土器が出土することは古くから長谷部・山内によって指摘されていた。しかし本格的な調査は大場らによる函館市サイベ沢遺跡の発掘調査を嚆矢とする（児玉・大場・武内 1958）。サイベ沢遺跡では縄文時代前期に相当する第Ⅰ～Ⅳ文化層が確認され、層位的に土器・石器の変遷が示されている。この後、松崎・渡辺により江差町楳川遺跡などの資料が紹介され（松崎・渡辺 1959）、これらを吉崎がまとめている（吉崎 1965）。

吉崎は下層 a・b 式に楳川式・茶呑場上層Ⅱ式、下層 c 式にサイベ沢Ⅱ式、下層 d 式にサイベ沢Ⅲ式・勝山館Ⅱ式が相当するものとしている。この見解はその後、広く受け入れられ、小笠原が更に下層 a 式に相当するものとしてハマナス野Ⅰ式を設定し、楳川式、サイベ沢Ⅱ・Ⅲ式をそれぞれ a・b に細分した。サイベ沢Ⅱ式は下層 c 式に、サイベ沢Ⅲ式は下層 d 式に相当するとし吉崎の見解を踏襲している（高橋・小笠原 1980、小笠原 1982）。

しかし、下層 c 式については口縁部文様帯が広く、そこに幾何学的な押圧縄文が施され、胴部文様に羽状縄文が多用されるとする山内、三宅などによって設定された c 式に類似する資料が北海道ではあまり出土しなかった。このため、千代は c 式が北海道に存在すること自体を検討する必要があるとしている（千代 1975）。

また、下層 c 式相当と考えられたサイベ沢Ⅱ式は多くが筒型で口縁部文様帯が狭いこと、すだれ状縄文が多用されることなどから、むしろ下層 d 1 式相当と考える方が妥当と考えられ（大沼 1986 など）、c 式については見解が定まらない状況となっていた。

このような中、木古内町新道 4 遺跡の調査が行われ（道埋文 1985、1986、1987）、一連の調査を担当した大沼が前期の土器についてまとめている（大沼 1986）。大沼は下層 a 式を楳川遺跡出土資料、b 式を函館空港出土資料とした。下層 c 式については従来円筒土器下層式に先行するものとも見なされてきた（千代 1975）サイベ沢遺跡第Ⅰ文化層の資料、森町森川 A 遺跡出土資料、ハマナス野遺跡出土資料の一部、知内町湯の里 2 遺跡の出土資料などを挙げている。また、d 1 式にサイベ沢Ⅱ式、d

2式に同Ⅲ式が相当するとした。

この見解は北海道では次第に受け入れられるようになっているが、大沼によってc式の新しい段階と考えられた新道4遺跡出土土器の一部は(道埋文1987)、三宅によってd1式とされる(三宅1989)など細部ではまだ一致していない部分もある。

(2)開拓記念館所蔵の森川A遺跡出土土器について(Ⅶ章-2参照)

熊野・八木によって報告された熊野コレクションの森川A遺跡出土資料(熊野・八木1974)は現在、北海道開拓記念館に収蔵されている。今回本遺跡の報告をするにあたって、実見する機会を得た。

器形は筒形に近いものと細長いバケツ状のものとがあり、器高は最大で50cmのものがあるが、多くは30cm前後である。いずれも口縁部がわずかに外反し、口唇部は指頭により調整され、わずかに波打つものが多い。中には4ヵ所の波状口縁となるものもある。また、口唇部の調整により粘土が器面側にまわっているものもあった。全般的に薄手で胎土に繊維は少なく、焼成は良好である。内面は丁寧に磨かれているが、器面・内面ともに凹凸が確認できる。

口縁部文様帯には鋸歯状・幾何学的な縄線文、平行縄線文、無文地に綾絡文、網目状撚糸文、斜行縄文、付加条の原体による斜行縄文、自縄自巻の縄文などが施されている。胴部には単節・複節の斜行縄文、付加条の原体による斜行縄文、自縄自巻の縄文、撚糸文、網目状撚糸文、多軸絡条体回転文が施されている。また、底部近くに条痕文が見られるものもあった。なお、撚り戻しの縄文は無く、すだれ状縄文は破片資料で2点のみが確認できた。文様帯の区画は隆帯、縄線文、綾絡文によってなされている。隆帯上には刺突がある場合が多く、地文施文後に隆帯が貼り付けられたものもあった。

これらの土器は一括資料として考えることができると言う(開拓記念館、平川氏のご教示による)。

(3)シリカ2遺跡出土の円筒土器下層式

今回、本遺跡で出土した土器の多くは森川A遺跡出土資料に類似しているものが多く、下層d1式に相当すると推測されるものが少量あった。住居跡(H-2)の床面で本遺跡で主体となる土器(Ⅱ群b-1類)が、覆土から下層d1式もしくは新道4遺跡Ⅱ群B1類3群(大沼=c式、三宅=d1式とする資料)に相当する資料(Ⅱ群b-2類)が出土した。このため、床面出土の土器は層位的に下層d1式よりもやや古いもので下層c式並行の土器であることが推測できた(注1)。

なお、本遺跡の場合と同様に南茅部町ハマナス野遺跡HP-123でも層位的に変遷がとらえられる(図Ⅷ-5)。覆土下位のX2-4・5層から本遺跡出土のものと類似する森川式土器が、上位のX2-1~3層から筒形で文様帯が狭く胴部にすだれ状縄文、多軸絡条体回転文が施文される下層d1・d2式相当の土器が出土している(注2)。

①Ⅱ群b-1類土器について

このような結果を基に、本報告では土器の分類を行った。本遺跡ではⅡ群b-1類(森川式・下層c式)が最も多く出土した。その中で、1~4の復元土器が段丘縁のj-13区でまとまっており(図Ⅷ-4上段、図版19)、同時に廃棄されたと考えることができる。大きめの深鉢1個と小型の深鉢3個がセットとなりそうであり、長万部町花岡2遺跡H-9出土土器の4個体のセット(図Ⅷ-6)と符合する。

これら、Ⅱ群b-1類土器は胎土に繊維が少なく、おおむね調整は良好である。また、概して薄手で小型のものが多い。器形は古手で筒形に近く、次第にバケツ状となるかと考えられる。口縁部がわずかに外反し、口唇部は指頭により調整され小波状を呈する。口縁部文様帯には綾絡文や縄線文が多用される。胴部文様には斜行縄文、撚り戻しの縄文、撚糸文、自縄自巻の縄文などが施され、さらに2種類の原体を用いて施文することも多い。

なお、これらの土器は、主に青森県で設定されたc式と文様帯の幅が広いことなど共通する点もあるが、特に口縁部文様・胴部文様の様相が異なっている。

②Ⅱ群b-2類土器について

Ⅱ群b-2類土器（下層d1式に相当）は筒形に近い器形となり、内面調整はより丁寧に行われ光沢があるものも多く、胎土に含まれる繊維はより少ない。口縁部断面形は器壁が薄い場合には尖り気味、厚い場合には丸みを帯びるようになる。口縁部文様帯の幅は狭くなり、平行する数条の縄線文が施される場合が多い。胴部には撚糸文、自縄自巻の縄文と結束第1種羽状縄文によりすだれ状縄文を構成する。また、多軸絡条体の回転文も見られる。施文は一般的にb-1類土器よりも緻密な印象を受ける。

このようなⅡ群b-2類土器は、H-2とその周辺のh-13・i-12区およびm-14区が主な分布域として考えられる。

H-2では覆土から2個体のⅡ群b-2類土器が出土した（図Ⅷ-4中段上、図版12）。その周囲の包含層であるh-13・i-12区包含層からも口縁部に縄線文・綾絡文・羽状縄文が施され、胴部には羽状縄文と撚糸文・自縄自巻的縄文ですだれ状縄文を構成する土器が4個体出土している（図Ⅷ-4中段下）。これらの内面は丁寧に磨かれ、光沢があるものが多い。

また、m-14区では大きく3ヵ所にまとまって土器が出土した。段丘の縁部分に小破片でまとまっていたことから、同時に廃棄されたと考えることができる。復元できた縄線文とすだれ状縄文のやや大型の深鉢1個、口縁部に縄線文、胴部に多軸絡条体回転文が施された深鉢、多軸絡条体の施された底部などである（図Ⅷ-4下段）。

破片資料が多いが、Ⅱ群b-1類土器と同じく4～5個体で1セットとなるかと考えられる。また、H-2出土Ⅱ群b-2類土器はb-1類とあまり時間差がないと考えられること、m-14区出土土器は厚手で多軸絡条体回転文が見られることから、後者の方が若干新しい段階かとも推測できる。

(4)森川式土器の分布について

最後に、先述した特徴を有する森川式土器の分布について考えてみる（図Ⅷ-6・表Ⅷ-1）。

本遺跡Ⅱ群b-1類土器に類似する口縁部文様帯に綾絡文・縄線文が施されている土器は木古内町新道4遺跡（道埋文1985ほか）・釜谷5遺跡22号住居（木古内町教委1995）、南茅部町ハマナス野遺跡（上記）・ポン木直遺跡（未報告）、八雲町栄浜1遺跡（八雲町教委1987・1998）・コタン温泉遺跡（八雲町教委1992）、寿都町寿都3遺跡（寿都町教委1980）、長万部町花岡2遺跡（北埋調報139）で出土している。

また、森川式に相当するものの、本遺跡や森川A遺跡出土土器とは若干様相が異なる縄線文・絡条体圧痕文・沈線文が施されている土器は七飯町国立療養所裏遺跡（七飯町教委2000予定）、上磯町茂別遺跡（北埋調報121、1998）、木古内町釜谷遺跡11・13・15・32号住居（木古内町教委1996）、知内町湯の里2遺跡（道埋文1985）、松前町松城遺跡2号住居址覆土下層（松前町教委1991）・札前遺跡（同1991）・大津遺跡（同1974）・白坂遺跡第8地点（同1983）、檜山の乙部町栄浜遺跡（乙部町教委1977）、元和遺跡第2地点（同1976）で出土している。資料が少ない段階ではあるが森川式土器の文様構成は地域により特色が分かれそうである。

このように森川式土器の分布は今のところ道南の渡島半島部に集中し、その中でも渡島支庁管内に大きく片寄っている（注3）。

このことは青森県出土のものと類似する下層a・b式が伊達市や白老町、d式が室蘭市や岩内町でも出土しており、その分布域が広範に及ぶこととは対照的である。

何らかの理由で本州との交流が相対的に粗になったことで、北海道的特色ある森川式土器が生じ、また本州の交流が少なくなったため分布域も縮小したと考えられる。この後、d式の時期にまた本州とのつながりが相対的に活発になり、本州と非常に類似する画一的な土器が作られ、分布域も拡大したと推測されるのである。

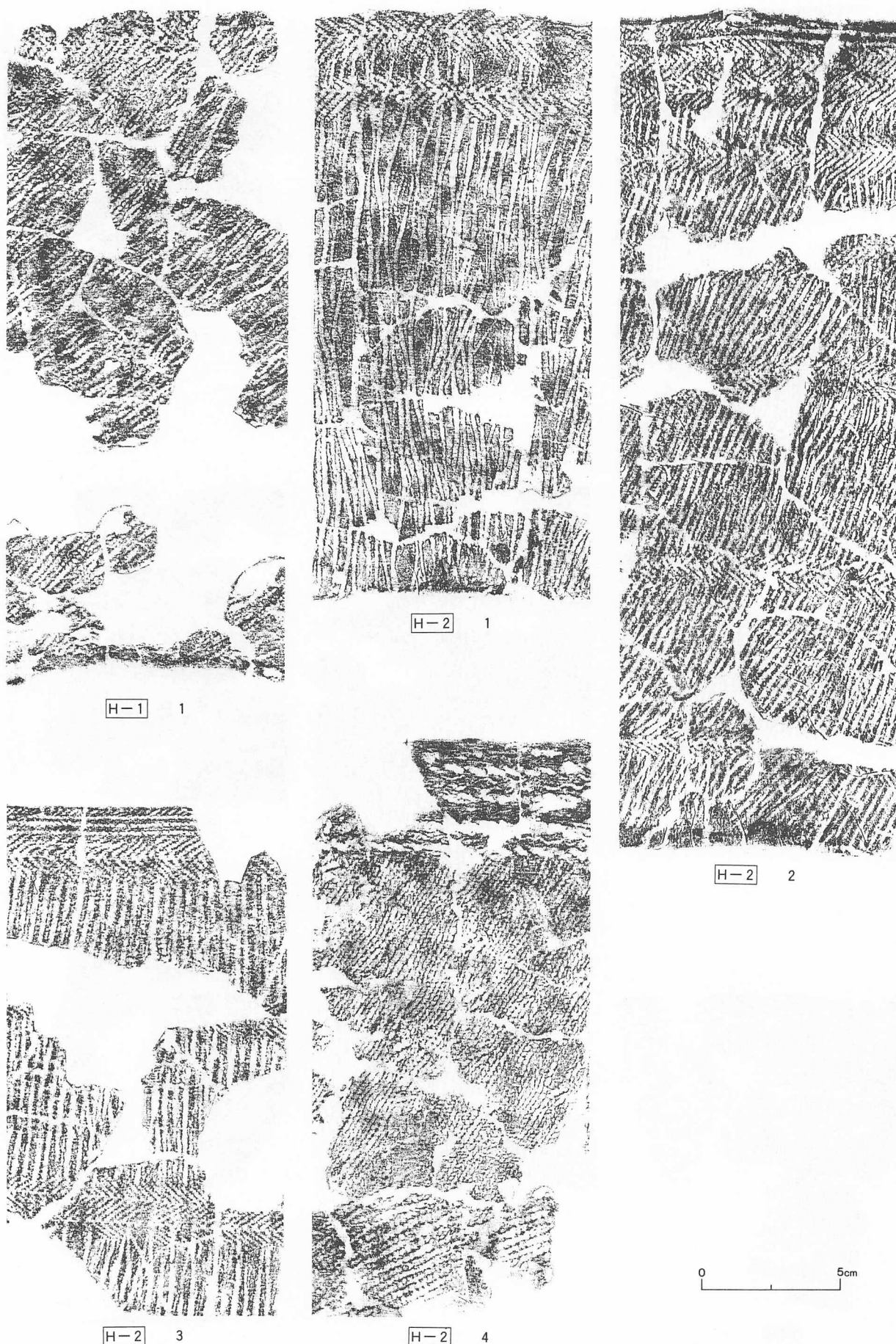
(注1) なお包含層でも層位的に出土することを想定し調査したが明瞭に分離できなかった。表12の「回数(総数)」とあるものは、その層位を全て掘り下げるのに要した回数の内、何回目にあたるかを示したものである。これは、耕作による削平が及んでいる深度が地点により異なるために用いた表記法である。たとえばⅢ層の1(2)、2(3)、3(4)は下位のⅢb層を基準として、その上位の5~10cmの同じ位置を示すものである。これによってもⅡ群b-1類とb-2類で明瞭な出土層位の差はとらえられなかった。また、m~rラインについては出土土器の垂直分布を示したが(図Ⅳ-1-24)、ここでも両者は層位的に区別できなかった。これは、両者の時期が連続して近接しているためであろう。

(注2) 報告者の小笠原はX2-1・2層、3~5層でまとまりをとらえ、サイベ沢Ⅱ式新・旧と分類している。しかし、ハマナス野遺跡で小笠原によりサイベ沢Ⅱ式とされたものは多様な土器群を含むようである。筒形で文様帯が狭く地文にすだれ状縄文が施文されるものが多く、本遺跡で出土したような小型のバケツ状で口縁部文様帯が広く地文に撚糸文・撚り戻しの縄文などが見られるものも含まれる。前者の多くは大沼の指摘するようにその特徴から下層d式相当と考えられる(大沼1986)。そして、本遺跡で出土した土器と類似する後者にあたるものが大沼の指摘する下層c式相当と考えられる。ただし、このようなハマナス野遺跡出土サイベ沢Ⅱ式の2分は小笠原によるⅡa、Ⅱb式の細分とは合致しない。なお、ハマナス野遺跡ではHP-4・18・118・122・123出土土器が森川式に相当すると思われるまとまった資料として挙げられる。

(注3) 南茅部町・七飯町の資料については実見して判断した。その他は実測図、拓本、写真からの類推である。なお、伊達市北黄金貝塚でも類似する土器が出土している(『豊浦町史』1972、伊達市教委1986)が、筒形で口縁部が外反しないことなど本遺跡Ⅱ群b-1類土器とは様相が若干異なりやや古手かと考えられるため、今回は分布図に掲載していない。(藤原秀樹)

番号	市町村	遺 跡	出 土 地 点	報 告 書 で の 分 類	文 献
1	長万部町	栄原2遺跡	包含層	Ⅱ群(前期の土器)	長万部町教委1997
2	長万部町	花岡2遺跡	P-3・H-9	Ⅱ群b類(円筒土器下層c式)	北埋調報139、2000
3	八雲町	シラリカ2遺跡	H-2・包含層	Ⅱ群b類(森川式・円筒土器下層c式)	北埋調報142、2000
4	八雲町	コタン温泉遺跡	包含層	Ⅱ群B類(円筒土器下層c式)	八雲町教委1992
5	八雲町	栄浜1遺跡	H-203・包含層	I群(前期の土器、下層d1式)	八雲町教委1987・1998
6	森 町	森川A遺跡	H-3	下層b式の新しい段階	森町教委1982
7	南茅部町	ハマナス野遺跡	H-18・123など	サイベ沢Ⅱ式	南茅部町教委1989ほか
8	南茅部町	ボン木直遺跡	?		未報告
9	七飯町	国立療養所裏遺跡	包含層、出土地点にまとまり	下層c式	本年度報告
10	函館市	サイベ沢遺跡	第22層	円筒式文化の母体	児玉ほか1958
11	木古内町	釜谷遺跡	H-11・13・32など		木古内町教委1996
12	木古内町	釜谷5遺跡	H-22	Ⅱ群B類(円筒下層c式)	木古内町教委1995
13	木古内町	新道4遺跡	BH-16・BP-157・GP-31など	Ⅱ群B1類2群(円筒下層c式・サイベ沢Ⅰ式)	北埋調報33・43・52、1986・87・88
14	知内町	湯の里2遺跡	H-2・包含層	Ⅱ群(サイベ沢Ⅰ・Ⅱ式)	北埋調報18、1985
15	松前町	松城遺跡	H-2覆土下・A-3区第X層	I群2類(下層c式)	松前町教委1991
16	松前町	札前遺跡	包含層	第3群1類(円筒土器下層式のなかでも古いタイプ)	松前町教委1991
17	松前町	大津遺跡	A地点包含層	第4群(円筒土器下層A・B式)	松前町教委1974
18	松前町	白坂遺跡	第8地点包含層	第7群b類(円筒土器下層c式)	松前町教委1983
19	乙部町	栄浜遺跡	包含層	第Ⅱ群C類(円筒土器下層b式・沈線文をもつもの)	乙部町教委1977
20	乙部町	元和遺跡	第2地点包含層	B群(円筒下層各式)	乙部町教委1976
21	寿都町	寿都3遺跡	包含層	第Ⅰ群(円筒土器下層d式)	寿都町教委1980
22	上磯町	茂別遺跡	包含層(Ⅲ層中・下部)	Ⅱ群B-2類(円筒下層c式)	北埋調報121、1998

表Ⅷ-1 森川式・円筒土器下層c式出土遺跡一覧



図Ⅷ-1 復元土器拓影図(1)



包含層 1



包含層 3



包含層 2 (図裏面)



包含層 2 (図正面)



包含層 2 (内面)



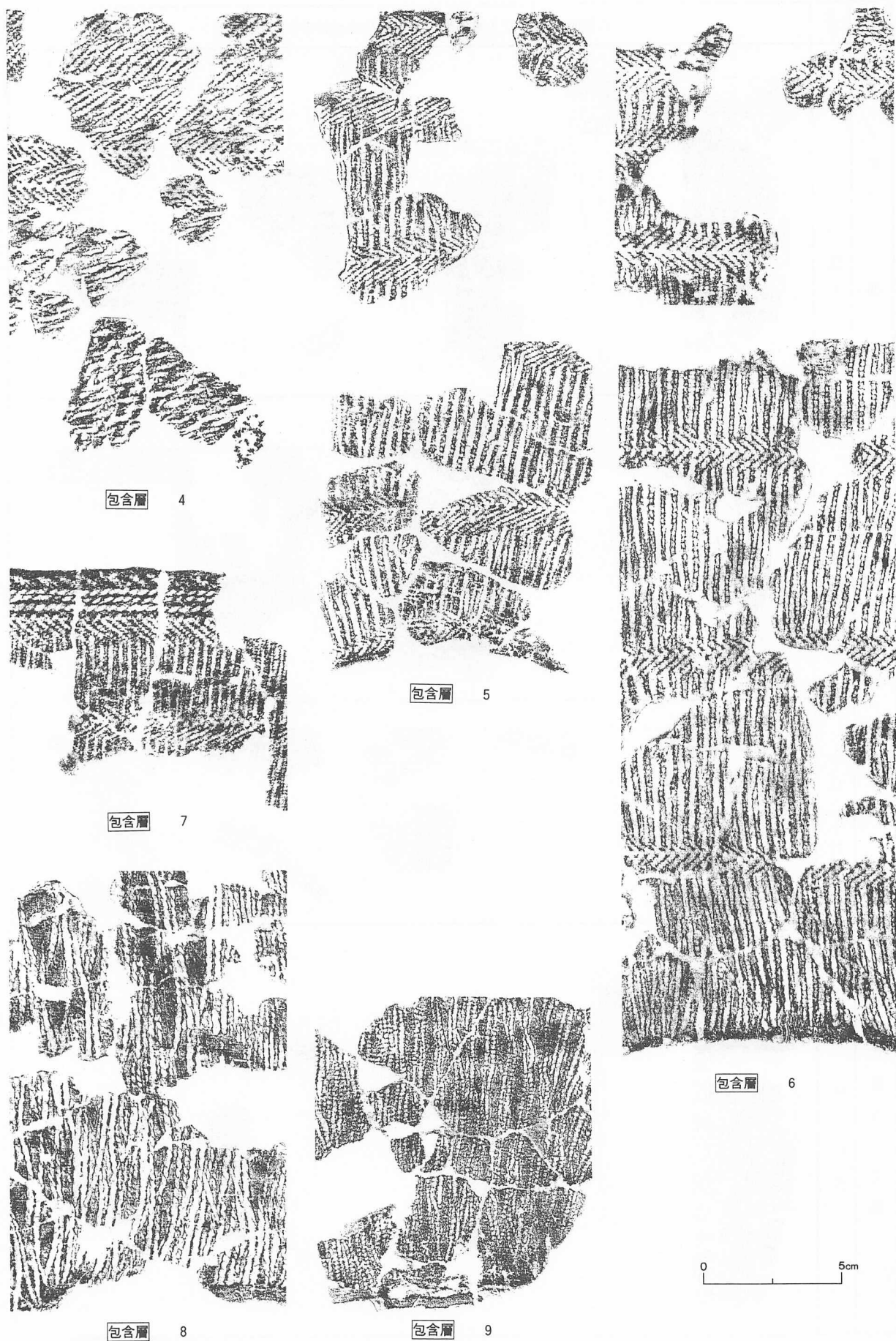
包含層 2 (内面)



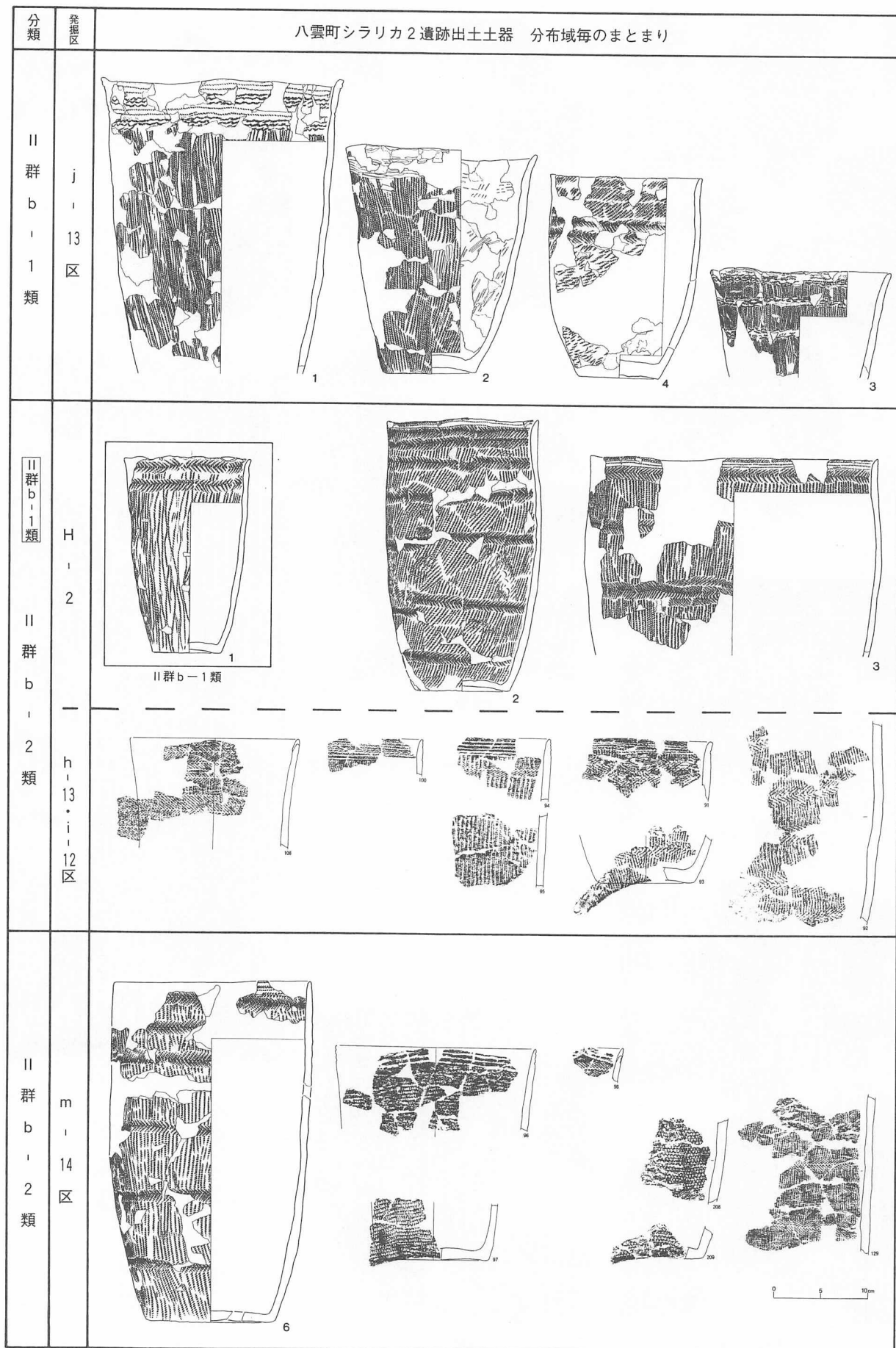
包含層 2 (底面)

0 5cm

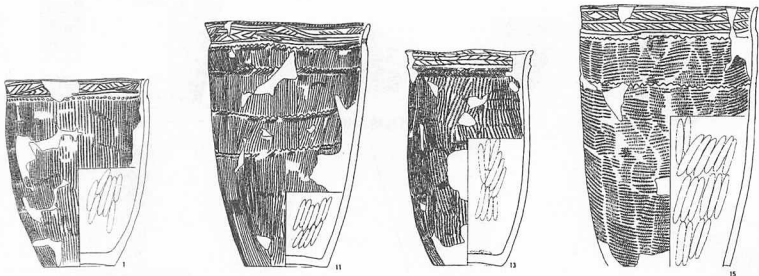
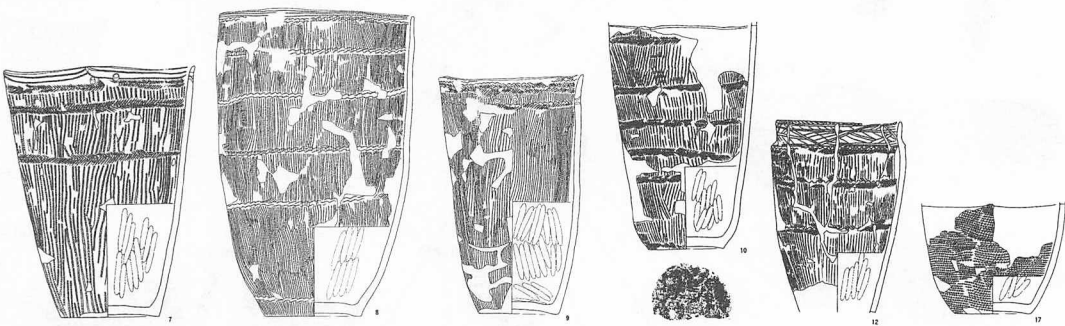
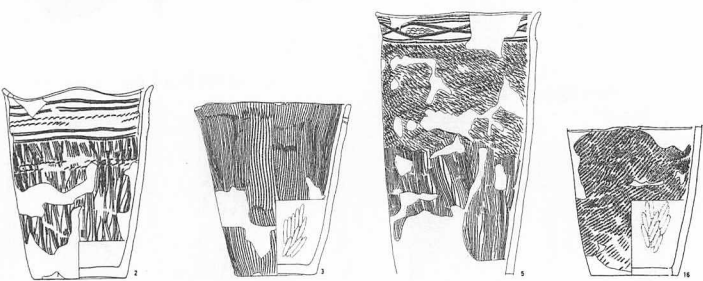
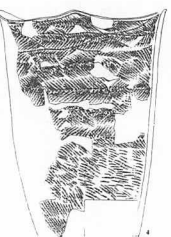
図Ⅷ-2 復元土器拓影図 (2)



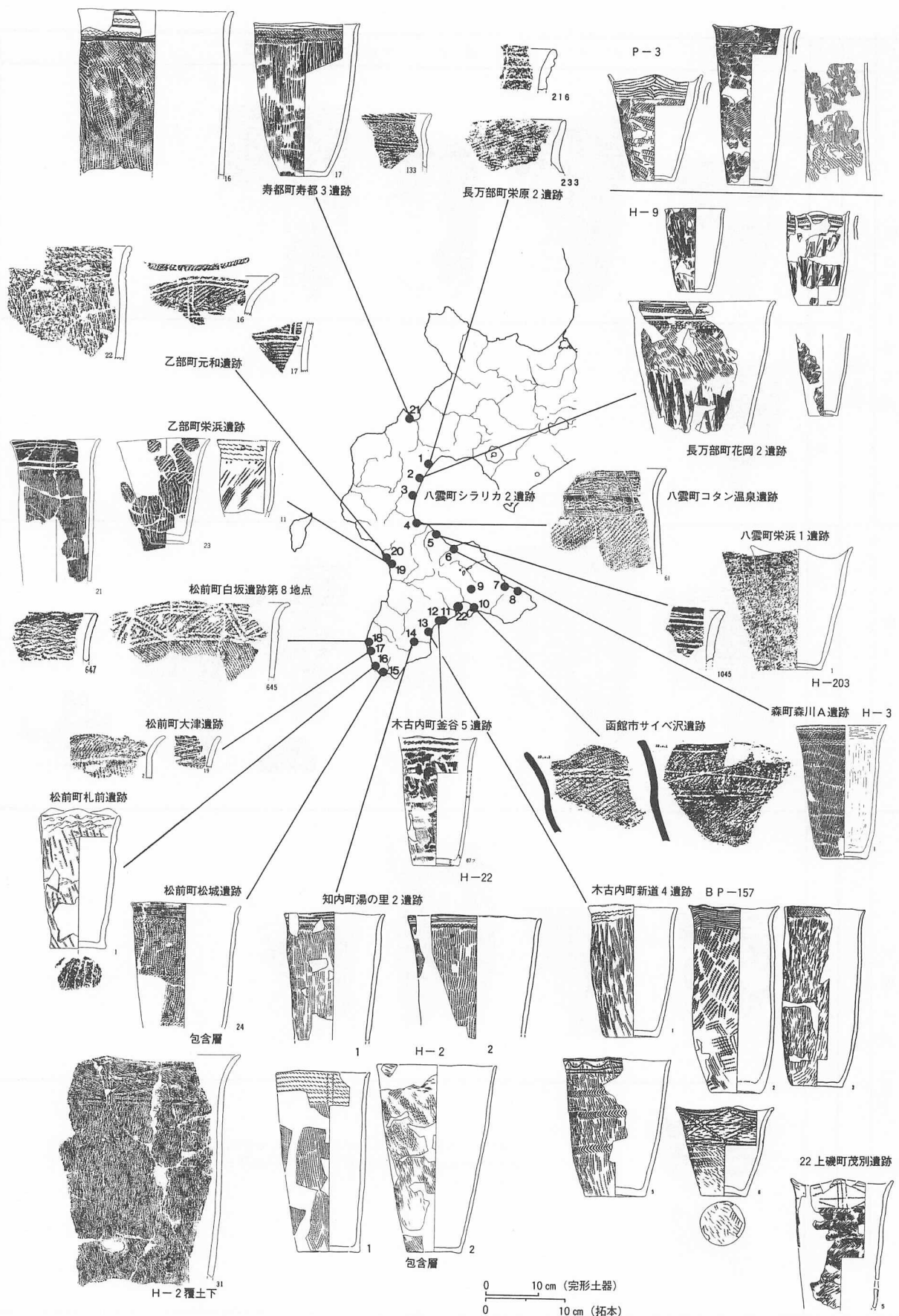
図Ⅷ-3 復元土器拓影図(3)



図Ⅷ-4 分布域毎の土器のまとめ

ハ マ ナ ス 野 遺 跡 H-123 出 土 土 器			
私見	小見解	見解	層位
下層 d 1 式	サイベ沢 II 式 (新)	X 2-1 層	
		X 2-2 層	
下層 d 1 式 (古)	サイベ沢 II 式 (古)	X 2-3 層	
		X 2-4 層	
下層 c 式 (森川式)		X 2-5 層	 HP-123は HP-18同様、サイベ沢 II (古) 式と同 II (新) 式。II (新) 式は縦位縄文に結節羽状縄文、多軸格条体回転文に綾格文が付加され、隆帯上に刺突文が認められるものである。

図Ⅷ-5 南茅部町ハマナス野遺跡 H P-123出土土器



図VIII-6 森川式・円筒土器下層 c 式の分布